

## [概要]

本稿では、近年のスケートボードを取り巻く環境の変化を踏まえて、スケートボーダーの日常実践を記述するとともに、都市空間の利用の展開とその要因を考察することを目的とした。調査は、2023年に開設されたNIXアーバンスケートパークと富山駅北の地下広場を対象に聞き取りを行った。調査の結果、スケートパークでは年齢や技術に関係なく互いに譲り合いながら滑る姿が見られ、スケートボードがストリートカルチャーから競技性をもつスポーツへと拡大していることが確認された。また、スケートパークを媒介としてスケートボーダーの間に交流が生まれていることも明らかとなった。一方、地下広場におけるスケートボーダーは、夜間に集まりながら警察や地域住民に配慮し、衝突を避けて空間を継続的に利用していた。彼らは「縛られない」「自由にいられる」ことをストリートの魅力として語り、自由を求める実践を行っていた。スケートボーダーの都市空間の利用については、年齢による差異が見られた。親の監督下にある未成年のスケートボーダーは安全性が担保され、公認された空間であるスケートパークに取り込まれる一方で、成人したスケートボーダーは混雑したスケートパークに居心地の悪さを感じ、ストリート空間へと押し出されていると考えられる。

**キーワード**：スケートボード，ストリートカルチャー，都市空間